

Vol. 242 金融支援後の倒産2倍に 円滑化法改善進まず (平成24年10月25日)

今朝の千葉日報の大きな活字が一番先に目に入りました。

中小企業円滑化は来年3月末で終了するので、今までこの円滑法を利用して金融機関から中小企業や住宅ローンの借入金の返済猶予、貸出条件変更を要請してリーマンショック以来の資金繰り悪化を乗り越えてきました。

しかし、現況は円滑化が来年3月まで延長されたのにもかかわらず、円高デフレ不況の中で事業環境は中々好転せず、多くの中小企業の経営改善は思うように進みませんでしたので、上半期だけでも倒産する中小企業は前年同期の2倍となっておりと報道されておりました。

昨夜、私共の会社の決算報告会の席上でも「この円滑化が予定通り来年3月に終了となれば、現在この融資法を利用している中小企業は凡そ40万社約80兆円と言われておりますので当然金融庁の貸し出し検査が厳しくなり、不良債権化が大変心配されます」と同席された関係機関の方が話されておりました。

私共の地域はアクアラインを通して恵まれた立地条件にありますので、他の地域より影響は少ない様がありますが、前例の無い時代へと突入する時、経営改善、再建を考える絶好の機会であり、企業の存廃をかける重大な時を迎えておるとも言えます。

私の会社も2年前にコンサルタントを変えました。販売中心からバックヤードへと比重を移しました。コンサルタントを変えろと言う事は中々難しい仕事ですが、私の会社にとっては極めて時を得た決断であり、好結果を生むことになりました。

来年3月以降どう生き残るか私はこのFAX通信を通じて「本音で話せる親友を会議所の出会いの中で見つけて下さい。社外重役を持ってみませんか？」と提案してきました。

実際に社外重役をお世話して成功しておる会社は何社かあります。また金融機関、税理士を相談相手にされることは一番身近でよい事ですが、中々本音の相談がしにくいと言われる人が多くあります。そこで気軽に本音で相談できるコンサルタントの派遣を交渉しております。

不況とは経営者の心の中に生まれる「不安感」でありますから、本音、弱音を話し、解決の糸口を与えてくれる人、弱気になりそうな心を支えてくれる人があれば経営は一転します。

私は会頭就任以来「御用聞き、宅配」をお勧め致して参りました…私の会社は進んで御用聞き、宅配です。市経済部も関心を持って下さり、支援・助成を考えてみたいと言われております。

これからは卸売業・小売業が難しくなります。

大型店・チェーン店が栄えて地場産業が亡んでは街は栄えません。

11月9日15時30分より内外情勢調査会の時事通信社主催で観光庁、4市市長さん等によるパネルディスカッション「かずさ地域の観光振興に向けて」が、木更津ビューホテルで開かれます。これからは私達の街が持っている立地条件、観光資源をどう生かすかが生き残りの機会でもあります。お誘い合せて出席して下さい。

経済が良ければ幸福感も増大します…。

27日(土)は久留里城まつりが10時より催され、甲冑行列などが行われます。是非ご参加下さるようお願い申し上げます。